１．基本情報

自治体名	事業番号	事業名
大熊町	A-1	自治体連携によるスイーツ作りコンテストの開催及び各自治体産品を使ったスイーツの開発・販売による大熊町の魅力発信事業

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	合計額
総事業費	0	0	17,308,000	21,995,000	21,993,000	61,296,000

対象事業費区分						
情報発信事業				外部人材活用		施設改修
風評調査	体験企画	情報発信	ポータル	外部人材	語り部	
	○	○				

２．事業の実施状況サマリー

個別の事業名	開始年度	終了年度	具体的な取組内容の実績
ふくしまスイーツ甲子園	令和5年度	令和7年度	計３回実施
高校生による被災農地ツアー	令和5年度	令和7年度	計３回実施
関東圏における出店	令和5年度	令和7年度	計４回（代々木３・日本橋１）
マスメディア広告	令和5年度	令和7年度	計30,000PV以上

３．アウトプット・アウトカムの達成状況

アウトプット①	関係自治体連携による全国の高校生を対象としたスイーツ作りコンテストの開催				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標	－	－	１回	１回	１回
実績	－	－	１回	１回	１回

アウトプット②	関係自治体連携による関東圏イベントの実施				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標	－	－	１回	２回	２回
実績	－	－	１回	１回	２回

アウトプット③	各町農産物を使ったスイーツ（土産物）の開発・販売イベントの実施				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標	－	－	－	開発１個	販売１回
実績	－	－	－	開発１個	販売１回

アウトプット④	BS放送並びに地方テレビ局における番組の放送				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標	－	－	－	－	年２回
実績	－	－	－	－	年４回

アウトプット⑤	マスメディア等によるWeb記事体情報発信				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標	－	－	20回以上	30回以上	30回以上
実績	－	－	34回	371回	353回

アウトカム①	マスメディアWeb記事及び広告閲覧数				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標	－	－	10,000PV	10,000PV	10,000PV
実績	－	－			10,702PV

アウトカム②	大熊町内の果樹作付面積				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標	－	－	－	１ha	２ha
実績	－	－	－	１ha	７ha

４．風評の払拭に関する目標の達成状況

風評の払拭に関する目標①	設定期間	令和5年度	～	令和6年度	要 変更理由
令和７年における大熊町の果実産出額：3,000万円/年以上とする。					

目標達成度	従前値	目標値	実績値	実績値の根拠
0%	令和4年度	令和7年度	令和7年度	
千円	0	30,000	0	

風評の払拭に関する目標を変更した理由
作付から成実までの期間を考慮していない目標値であったため変更。

風評の払拭に関する目標②	設定期間	令和7年度	～	令和7年度	
令和７年度における大熊町の果樹作付面積3.3ha以上とする。					

目標達成度	従前値	目標値	実績値	実績値の根拠
161%	令和5年度	令和7年度	令和7年度	農地法第３条耕作契約書
ha	0	3	5	

風評の払拭に関する目標を変更した理由

風評の払拭に関する目標③	設定期間		～		要 変更理由

目標達成度	従前値	目標値	実績値	実績値の根拠
#DIV/0!				
（単位）				

風評の払拭に関する目標を変更した理由

風評の払拭に関する目標④	設定期間		～		要 変更理由

目標達成度	従前値	目標値	実績値	実績値の根拠
#DIV/0!				
（単位）				

風評の払拭に関する目標を変更した理由

５．総合評価

事業実施による評価

本事業の取組により大熊町の果樹作付面積は1.61倍へと増加することに成功した。実際に産出額といった成果で現れるには成実まで時間がかかることから実感しにくいものの、着実に営農再開が進んでいることは間違いない。

特に令和５年度からの３年間で効果を実感したこととしては以下の通り。

〇令和５年度からのリピーターが存在し、ブース出店の際に声をかけてくれる人が年を追うごとに増えた。震災から15年経過し、忘れられていくことが多い中で、町から遠く離れた個人の中に記憶されていることを実感することができた。

〇本事業を活用して大熊町産キウイを使った土産品として誕生した「シカクイキウイ」は、天皇皇后両陛下が行幸啓された際に召し上がられたことで、オンラインストアが完売になるほどの話題をさらった。

〇令和７年度で本事業は完了となったものの、大熊町にはまだ多くの特産農産物があり、同様に情報発信するにあたっての嚆矢となった。

一方で、開発したスイーツの扱いに少々困る点が課題として挙げられる。元々全国の高校生のうち、コンテストで優秀な成績を納めた生徒が作ったスイーツであるため、レシピがあったとしても技術や必要な器具まで揃えられる事業者がおらず、町内イベント等での提供が難しい状況となっている。

今後は、開発したスイーツを十分に活用できるよう、様々な予算を検討しつつ環境整備を行う必要があるだろうと考えている。

【その他、本事業による上記以外の成果や効果、実績等】

果樹作付面積5.3ha全てがキウイの栽培面積であると仮定した場合、平均的な収量ベースでは約60t程の確保が見込まれることとなる。キウイの卸売価格は１tあたり600千円～720千円程であるため、収量から単純に計算した産出額は36,000千円～43,200千円となり、令和５年度の実施当初から掲げていた目標に届く。本事業によってキウイの活用法が広がったことにより、生産者の営農意向拡大が見込まれ、震災以前の生産量を取り戻すことができれば大熊町の農業復興の将来は明るい。